

[優秀賞]

◇ 性別について考えること

石塚小学校 5年 吉井 爽代可



「女子って手先が器用だよな。女子はほとんどきれいにぬえているけれど、男子はグチャグチャになっている。」

家庭科のソーイングの授業中、一人の男子がつぶやきました。私はその言葉にとてもおどろきました。なぜなら、私は自分のことを器用だと思ったことはないし、5年生になって家庭科が始まって楽しかったので、一生けん命針をチクチク動かしているだけだったからです。「女の子でも不器用な人はいるし、男子にだってき用な人はいるよな。」と心の中で思ったし「器用とか不器用は男子・女子のちがいではなく、個人のちがいではないのかな。」と思いました。

私の両親は仕事をしています。父は工場につとめていて夜kinもあります。そんな時は父が料理をします。私は父の作った目玉焼きがトロトロで大好きです。妹は父の焼くウインナーはこげがないので、一番好きと言っています。祖母が

「ちょっと今まで、家の仕事は女人人がするものだと言われていたんだよ。それには、男子ちゅうぼう（台所）に入らず、っていう言葉もあるんだよ。」

と教えてくれました。でも、私は祖母の話を聞いてちがうような気がしました。「女人だから家のことをしなくてはならない、じゃあ男の人は…。それは男の人だから、女人だからと性別で決めることではないのではないか。」と思いました。私は、両親のように二人とも仕事をしていたら、話し合って家の仕事

を分ければいいのではないかと考えます。

家族でテレビを見ていたら、男の人が楽しそうに料理をしていました。テレビにうつった料理はとてもおいしそうで、小さな子どもたちもおいしそうに食べていました。母が、「きっとこの子ども達も小さいころからお父さんの料理を見ているから、大きくなても自然に料理するようになるね。」と話していました。

私は今、小学校5年生ですが、男だから女だからということではなく、個人個人のちがいを大切にていきたいです。それを土台にして、個人のとく意や不とく意を考えて、みんなで協力し合って生活していきたいです。今の内からこんな風に考えていれば、大人になってからも性別のちがいではなく、一人一人を個人として見ていくれると思います。

「人はいろいろな感じ方や考え方をするから大変だよ。」

と、祖母に言われました。私はまだ分かりませんが家族があって仕事をする集団があって地いきがあって、そこにはいろいろ人の集まりがあるということなのだろうと思います。年齢も様々です。ですが、今の思いをわざわざしていきたいし、自分と相手のちがいを大切に協力し合える大人になりたいです。